

## Q-SYS Designer Version 9.0 Release Note

### ソフトウェア要件

Q-SYS Designer は下記の OS での動作確認をしております。

- ・ Windows 8.1 Professional 64-bit
- ・ Windows 10 Pro 64-bit

※32-bit OS の PC にはインストールできません。

※Windows 7 は Microsoft のサポートが終了したためサポートから外れました。

Q-SYS Designer をインストールするためには下記のソフトウェアパッケージが必要です。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 (2.0 SP2、3.0 および 3.0 SP2 を含みます。)
- ・ Microsoft .NET Framework 4.6 SP2
- ・ Microsoft .NET Framework 4.8
- ・ Microsoft Windows Installer 3.1
- ・ Microsoft Visual C++ 14.16 (2017)
- ・ Microsoft XML Parser 6.0

※これらのソフトをインストールする際にインターネット接続が必要です。

### 仮想環境テスト

Q-SYS Designer ソフトウェアは Parallels Desktop for Mac を使用して Windows 10 の仮想環境下で動作することを確認しています。以下のテスト環境と設定を使用する際のガイドラインとしてご利用ください。

- ・ Mac ハードウェア : Mac Mini (Intel Core i7 3.6GHz 6 core / 16GB RAM)
- ・ Mac OS : Catalina 10.15.7

RDP アクセスを維持しておくためには省電力モードを無効にします。

- ・ Parallels Desktop for Mac Version 16

RDP アクセスを維持するためには Windows の一時停止の選択を解除します。

デバイス→ネットワーク→ブリッジネットワーク (イーサネット) →イーサネットが選択されていることを確認してください。

Windows の仮想環境に対して 8GB の RAM スペースを使用してください。

※Hard Link はテストしていません。

※Big Sur (Mac OS 11.1) は QSC ではテストしていません。

## Version 9.0 での追加・変更点

Q-SYS Designer 9.0 には多くの変更と追加があります。

アップグレードする際は本書を必ずご確認ください。また現在の設計に大きな影響を与える可能性がありますのでアップグレードする前に必ず現在のバージョンでのデザインファイルをバックアップしてください。

Q-SYS Designer 7.2.1 より前のバージョンから Q-SYS Designer 9.0 にアップグレードする際にはファームウェアを Version 7.2.1 にアップグレードしてから Version 9.0 にアップグレードする必要があります。

### ・ Design File に関して

Q-SYS Designer 9.0 で作成されたデザインファイルは Q-SYS Designer 8.3 およびそれ以下のバージョンでは開くことができません。

古いバージョンからアップグレードする場合は必ず古いバージョンで保存してからアップグレードを実施してください。

## Q-SYS Designer Version 7 のサポート終了

QSC のサポートポリシーに基づき Version 9 がリリースされたことにより 2 つ前のバージョンである Version 7 のサポートが終了しました。

今後メーカーサポートが必要な場合はシステムを最新にバージョンアップしていただき、問題が発生するかどうかの確認をお願いいたします。

Q-SYS Designer Version 7 以前のソフトウェアファイルが必要な方はお問い合わせください。

## Q-SYS Designer Version 9.0 の変更点

### ・ Microsoft Teams Rooms をサポート

Q-SYS を Microsoft Teams Room とルームコンソールと統合できるようになりました。この統合には複数のソフトウェア要素が含まれています。

#### ・ Q-SYS Control for MTR application

Microsoft Teams Room がインストールされたコンピューターにインストールして Teams Room コンソールで Q-SYS UCI を有効にすることができます。

#### ・ Q-SYS Designer 内の MTR コンポーネント

MTR アプリケーション用の Q-SYS コントロールの設定をするコンポーネントです。

#### ・ Q-SYS Software Feature License for Microsoft Teams Rooms

Microsoft Teams Room をデプロイメントするために必要なライセンスです。(既存の Scripting License と UCI Deployment License が含まれています。)

#### ・ Microsoft Teams Sample Design File

Microsoft Teams Rooms を導入するためのベースとして設計されたサンプルデザインです。ルームパラメーターを最適化するための UCI や認証済みの DSP シグナルフローが含まれています。

#### ・ Microsoft Teams CSS Style

サンプルデザインに含まれているほかに Asset Manager を介しても Teams のオリジナル UI にマッチさせるための CSS スタイルを使用することができます。

これらの詳細はヘルプファイルの Microsoft Teams Room (MTR) を参照してください。

### ・ Q-SYS Hardware

Q-SYS Designer 9.0 では新しい Core とラウドスピーカーをサポートします。

#### Core 8 Flex

新しい Q-SYS Core 8 Flex は 64 入力 64 出力のネットワークオーディオチャンネルに加え 8 系統のオンボードフレックスチャンネルと 8 つの GPIO を搭載し、Q-SYS Ecosystem に統合することができます。

詳細は Core 8 Flex のヘルプページを参照してください。

### Core Nano

新しい Q-SYS Core Nano は 64 入力 64 出力のネットワークオーディオチャンネルをサポートし、Q-SYS Ecosystem に統合することができます。(オンボードアナログオーディオ入出力はありません)

詳細は Core Nano のヘルプページを参照してください。

### NV-32-H (Core Capable)

NV-32-H (Core Capable) は Q-SYS Ecosystem のネイティブビデオエンドポイントですが本バージョンより 2 つの動作モードを提供します。

#### **Core Mode**

Q-SYS AV プロセッサ、制御機能、ローカル HDMI スイッチャ機能を統合し、中小規模の会議室や教室でのビデオコラボレーションをサポートするための Core として動作します。

#### **Peripheral Mode**

従来の NV-32-H と同様に複雑なプログラミングを必要とせずに HDMI とオーディオをネットワーク伝送することができます。(※Core は別途必要になります。)

詳細は Core Nano のヘルプページを参照してください。

注意：NV-32-H (Core Capable) は新しいハードウェアです。既存の NV-32-H をアップグレードして Core として使用することはできません。NV-32-H が Core Capable か判断するためにはユニットの底面にあるラベルで確認することができます。

### AD-S5T ラウドスピーカー

AD-S5T は 5.25 インチ 2 ウェイ 115° コニカル DMT ラウドスピーカーです。このラウドスピーカーのボイスフィルターを使用することができます。

詳細はラウドスピーカーのヘルプページを参照してください。

#### **・ Q-SYS Core Manager**

**Q-SYS Core Manager の System ページをアップデートしました。**

#### Audio File のドラッグ&ドロップおよびダウンロード

Core Manager の Audio File のページはオーディオファイル管理のための複数のアップデートがあります。

- ・ PC から Audio File フォルダに直接ファイルをドラッグ&ドロップできるようになりました。
- ・ 指定のファイルをクリックしてプレイリストにドラッグして登録できるようになりました。
- ・ 指定のファイルをクリックしてドラッグすることでサブフォルダやごみ箱に移動できるようになりました。
- ・ Audio File ページから直接ファイルを PC にダウンロードできるようになりました。

詳細はヘルプファイルの Core Manager→Audio File のトピックを参照してください。

#### Network → Multicast (NEW)

カメラ、ビデオエンドポイント、AES67 トランスミッターのマルチキャストアドレスの範囲を1つのページから設定できるようになりました。

詳細はヘルプファイルの Core Manager→Multicast のトピックを参照してください。  
Q-SYS Network のマルチキャストの要件はヘルプファイルの Multicast Traffic のトピックを参照してください。

#### Core、Peripheral Model

Core Manager→Utility ページから Core510i または NV-32-H (Core Capable) が Q-SYS Core プロセッサ (Core モード) または Peripheral (以前の IO モード) として機能するかを選択することができます。

注意：これらのモードオプションは Q-SYS Peripheral Manager にも表示されます。

詳細はヘルプファイルの Core Manager→Utility のトピックを参照してください。

#### Core Manager : User Control Interface / UCI Viewer CSS サポート

User Control Interface ページ内の HTML5 ベースの UCI Viewer は CSS スタイルが提供された UCI をサポートするようになりました。

UCI に CSS スタイルを適用する方法についてはヘルプファイルの UCI Sytle を参照してください。

#### **・ Q-SYS Peripheral Manager**

Q-SYS Configurator では Version 9.0 にアップグレードされたすべての Peripheral は Q-SYS Peripheral Manager へのリンクが含まれています。(Version 8.4 では機能が限定されてきました)

Version 9.0 では Peripheral Manager にネットワーク設定とユーティリティのタブが追加され、Q-SYS Configurator の以前の機能を踏襲しています。

#### Network Setting

ネットワークのモード設定 (Auto、Static、Off) や Static Route などの LAN アダプタの設定とホスト名 (Name) の設定を行うことができます。

NV-32-H デバイスの場合は PoE の機能の設定も含まれています。

詳細はヘルプファイルの Peripheral Manager→Network Setting のトピックを参照してください。

## Utilities

Q-SYS サポートチームがトラブルシューティングに必要なログアーカイブデータをダウンロードしたり、Peripheral を再起動することができます。

NV-32-H (Core Capable) と Core510i は動作モードを設定できます。

詳細はヘルプファイルの Peripheral Manager→Utilities のトピックを参照してください。

### ・ Q-SYS Designer

#### Q-SYS REFLECT へのサインイン

Q-SYS Designer ソフトウェアの右上に Q-SYS REFLECT へのサインインボタンを追加しました。このボタンをクリックすると Q-SYS Reflect Enterprise Manager にサインインすることができます。(※日本では Q-SYS Reflect 機能を使用することができません。)

#### Load from Core & Connect の更新

Load from Core & Connect のダイアログには多くの変更が含まれています。

- ・【F8】を押すと Load from Core & Connect が開くようになりました。
- ・ネットワーク上に見つかったシステムは発見方法が表示されるようになりました。(LAN/ローカル、Hard Link、Q-SYS Reflect)
- ・ステータスアイコンは発見されたシステムの概要とロードが可能かどうかを一目で確認できるようになりました。
- ・新しく管理アイコンが設置され、選択した Core の Core Manager に直接リンクできるようになりました。
- ・発見された Core は検索機能、組織、サイトでフィルタリングできるようになりました。

詳細はヘルプファイルの Load from Core & Connect のトピックを参照してください。

#### Q-SYS Configurator の更新

Q-SYS Configurator で検出されたがアクセスできない同じサブネット上にないデバイス (赤色のステータスで表示) についてクリックすることにより既知の IP アドレスを確認できるようになりました。

詳細はヘルプファイルの Q-SYS Configurator のトピックを参照してください。

## ・ Audio

### Software Dante の拡張

Core110f でサポートされていた Software Dante は全ての Core でサポートされるようになりました。また複数の Software Dante TX および RX コンポーネントをデザインに配置できるようになりました。

お使いの Core のモデルの Software Dante チャンネルは下記の通りです。

Dante	Core 8 Flex	Core Nano	NV-32-H	Core110f	Core510i	Core5200
8/8	◎	◎	○	◎	◎	◎
16/16	○	○	○	○	○	○
32/32	○	○	○	○	○	○
64/64					○	○
128/128					○	○
256/256						○
512/512						○

◎ : 標準で付属 / ○ : 追加ライセンスで実装可能

Software Dante の詳細はヘルプファイルの Software Dante TX または Software Dante RX のトピックを参照してください。

ライセンスの詳細はヘルプファイルのライセンスのトピックを参照してください。

### Q-SYS Softphone のアップデート

Q-SYS Core Manager→Softphones→Shared Setting にホールドオプションが追加されました。これは通話を保留した後に通話音声が開されない場合にオフに切り替えることができます。デフォルトでは有効になっていますがこのオプションをオフにするとホールド機能が適切に動作しない電話システムとの互換性を強制的に確保することができます。

セキュリティ強化のため Q-SYS Softphone では TLS 1.0 および TLS 1.1 のサポートが削除されました。

Softphone のパラメーターの詳細はヘルプファイルの Core Manager→Softphone トピックを参照してください。

## ・ VIDEO

### VIDEO MUTE

Generic HDMI Display コンポーネントに新しく VIDEO MUTE トグルスイッチを追加しました。このスイッチはディスプレイとの同期を維持したままビデオ出力を黒い画面に切り替えます。

例えばプレゼンテーション中にスライドファイルを切り替えるときなどユーザーがディスプレイを一時的に黒くする必要がある場合に便利です。

詳細はヘルプファイルの Generic HDMI Display の Video Mute のトピックを参照してください。

### HDMI Display Sleep/Idle Status LED

Generic HDMI Display コンポーネントに Idle モードと Sleep モードの状態表示 LED が搭載されました。これはディスプレイが現在どのような状態であるかを確認することができます。関連する制御ピンを使用して UCI ページの変更やデザインのインベントリをトリガすることができます。

## ・ Control

### I/O USB Bridge : USB Routing 機能の追加

I/O USB Bridge が Q-LAN 経由の USB ルーティングをサポートするようになりました。キーボードやマウス、スマートディスプレイのタッチスクリーンをネットワーク接続されたデバイスにルーティングすることができます。

この機能をサポートするために I/O USB Bridge のインベントリに以下のコンポーネントが追加されました。

#### **【USB Input】**

Q-SYS デバイスの USB-A ポートに接続されているものを視覚的に表示します

#### **【USB Output】**

指定されたデバイスの USB-B コネクタを視覚的に表示し、Q-SYS デバイスと接続されているホスト間の接続に問題がある場合や不足している場合に表示します。

Q-SYS の USB ルーティングに関する詳細や使い方はヘルプファイルの USB Router トピックを参照してください。

### I/O USB Bridge : HID キーボード、メディア、会議をサポート

I/O USB Bridge のインベントリに 3 つの HID コンポーネントが利用可能になりました。

#### **【HID Keyboard】**

I/O USB Bridge に接続されたリモートコンピューター上でキーストロークをトリガできます

**【HID Media】**

I/O USB Bridgeに接続されたリモートコンピューターでメディアアプリケーションの再生を制御します。

**【HID Conferencing】**

I/O USB Bridgeに接続されたリモートコンピューターで Skype for Business や Zoom などの会議アプリケーションを制御します。

詳細はヘルプファイルの HID Conferencing のトピックを参照してください。

**HTML5 UCI : CSS サポート**

CSS スタイルが適用されている UCI は Core Manager の HTML 5 UCI Viewer でサポートされるようになりました。

詳細はヘルプファイルの User Control Interface を参照してください。

**Inspector : Script および Plug-in のメモリ使用量**

Inspector でスクリプティングコンポーネントとプラグインが現在使用しているメモリ量を確認できるようになりました。

詳細はヘルプファイルの Inspector を参照してください。

**LUA Script : QR コード Generator**

QRCode ライブラリを使用して、指定した URL にリンクする QR コードグラフィックを生成できるようになりました。例えばスマートフォンで QR コードをスキャンすると会議室の UCI を表示する QR コードを生成することができます。

詳細はヘルプファイルの QRCode を参照してください。

**・ Q-SYS Designer Version 9.0 で解決された問題点****Video**

Core Manager でマルチキャストアドレスの範囲を 224-226 または 228-229 の間で指定してもエラーが発生しなくなりました。

**Video**

NV-32-H ビデオエンドポイントのマルチキャストアドレス範囲を 224-226 または 228-229 の間に指定してもエラーが発生しなくなりました。また冗長化構成でビデオエンドポイントのグラフィック画像が同期しない問題を解決しました。

### Video

PTZ カメラの Properties の Is Required が No に設定されていてカメラが検出できない場合に PTZ カメラのステータスが正しく Not Present と表示されるようになりました。

### Video

UVC を使用して PTZ カメラを制御する際に Zoom Rooms for Windows から UVC を使用して PTZ カメラを制御する場合にズームイン、ズームアウトが正しく停止するようになりました。

### Control

Core Manager の HTML 5 UCI Viewer で UCI レイヤーが正しく表示されるようになりました。

### Control

UCI レイヤーが正しく表示されるようになりました。フローティング/アンドックされた Schematic および UCI ページが他の Schematic および UCI ページからのコントロール ID の転送を受け付けるようになりました。

### Core Manager

Reset Form ボタンをクリックすると CSR テンプレートのアップロードが成功するようになりました。

### Core Manager

SSH が個々の LAN ポートに対して無効化できるようになりました。

### Core Manager

Peripheral Manager で構成された Core510i のデバイスモデルが正しく表示されるようになりました。

### Core Manager

悪意のあるファイルに対してセキュリティを強化するために HTML ファイルおよび EXE ファイルなどを Core にアップロードできなくなりました。

### Core Manager

冗長化構成をした場合に大容量のオーディオファイル (300MB 以上) をアップロードしてもエラーが発生しなくなりました。